

1 単元名 武道（柔道）

2 単元について

(1) 一般的な特性

- 機能的特性……相手の動きに対応した攻防を展開して勝敗を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。
- 構造的特性……姿勢と組み方，進退動作，崩しと体さばき，受け身などの「相手の動きに応じた基本動作」と投げ技，固め技などの「基本となる技」からなる運動である。
- 効果的特性……練習や試合をとおして，瞬発力・筋持久力・巧緻性などを高めることができる運動である。また，相手を尊重する態度や礼儀，ルールへの遵守，公正な態度を養うなど，社会的に望ましい行動の仕方を身につけることができる運動である。

(2) 生徒から見た特性

- ・練習した技を使い，試合で一本が取れると大きな喜びを感じる。
- ・助言をし合い，友達と一緒に上達できると喜びが大きい。
- ・受け身や礼法など，普段の生活では味わうことのない体験に，楽しさを感じながら学習を進めることができる。
- ・持っている筋力の強い人が有利であるという概念が強い。
- ・抑え込まれたり，投げられたときに痛みがあるので恐怖心を持ってしまう。

(3) 生徒の実態

- 学級の実態
本学級は運動に対する意欲が高く，どの単元でも熱心な取り組みが見られる。興味関心を持たせることで意欲を高め，積極的な学習態度へつなげることができる。その反面，新しい学習内容に対する，慎重な態度もあり，学習課題の提示の方法を工夫することで，継続的な意欲の向上につなげることが必要である。
- 単元に関わる実態（男子13名，女子14名，計27名 調査日：9月6日）
学習前のアンケート調査の項目と集計結果はつぎの通りである。

ア 【関心・意欲・態度】

① 柔道は好きですか	
1：好き……	0
2：どちらかと言えば好き……	9
3：どちらかと言えば嫌い……	18
4：嫌い……	8

イ 【学び方】

② 誰とでも協力して学習できるか	
1：できる……	13
2：仲の良い人とならできる…	14
3：できそうにない……	0

ウ 【技能】

次の受け身や固め技はできますか

③ うしろ受け身	
1：上手にできる……	17
2：上手にできない……	10
④ よこ受け身	
1：上手にできる……	10
2：上手にできない……	17
⑤ 前まわり受け身	
1：上手にできる……	11
2：上手にできない……	16
⑥ 固め技	
1：上手にできる……	8
2：上手にできない……	19

エ 【知識・理解】

⑦ 固め技の名称は理解しているか
1 : よくわかっている…………… 0
2 : 大体わかっている…………… 9
3 : あまりわかっていない…… 13
4 : ほぼわかっていない……… 5
⑧ 固め技を上手にできるポイントは理解しているか
1 : よくわかっている…………… 0
2 : 大体わかっている…………… 3
3 : あまりわかっていない…… 15
4 : ほぼわかっていない……… 9

(4) 教師の指導観

○ 指導の重点

アンケート結果から生徒の実態を見てみると、受け身の学習が身につけていないようである。2年生からは立ち技を学習するので、受け身の体得は必要不可欠である。特によこ受け身に関しては、投げられたとき、怪我の防止になる技能なので、技のかけ方と平行して、受け身を毎時間復習させたい。また、単元計画の後半では、礼法や試合の進め方、審判法についても、お互いが協力して行えるよう授業を展開したい。

○ 個に応じた指導

技能の習得には個人差があるため、技能の習得内容ごとに等質グループを作り、グループ学習により、教え合いの場を設け、課題を解決させたい。

3 単元目標

○技能……………

相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりしながら、相手と攻防することができる。

○態度……………

積極的に学習に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすることができる。

○知識、思考・判断…

柔道の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方が工夫できる。

4 評価基準（国立教育施策研究所「評価基準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料）参照

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
内容のまとめ	○武道の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	○武道を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	○武道の特性に応じて、攻防を展開するための基本動作や基本となる技を身につけている	○武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力、試合の行い方を理解している。
単元の評価基準	○武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ○相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。	○技を身につけるための運動の行い方のポイントを見つけている。 ○課題に応じた練習方法を選んでいる。	○投げたり抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技ができる。	○武道の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ○武道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
単元 の 評価 基準	○分担した役割を 果たそうとしている。 ○仲間の学習を援 助しようとしている。 ○禁じ技を用いな いなど健康・安全 に留意している。	○仲間と協力する 場面で、分担した 役割に応じた協力 の仕方を見つけて いる。 ○学習した安全上 の留意点を他の練 習場所に当てはめ ている。		書き出したりして いる。 ○技の名称や行い 方について、学習 した具体例を挙げ ている。 ○武道に関連して 高まる体力につい て、学習した具体 例を挙げている。 ○試合の行い方につ いて学習した具体 例を挙げている
学習 活動 に 即 した 評価 基準	①柔道の特性に関 心を持ち、主体的 に学習に取り組も うとする。 ②相手を尊重して 礼儀作法を守り、 練習や試合に取 り組もうとしている ③危険な姿勢にな らないように、安 全に配慮しようと している。	①課題に応じて自 分に適した技を見 出している。 ②技能の状況を考 えて約束事を決め て練習や試合の仕 方を工夫している	①相手を崩して技 をかけることがで きる。 ②自分に適した技 を用いて、相手の 動きに応じて技を かけることができる。	①自分や相手の課 題にあった練習方 法を知っている。 ②柔道の礼儀作法 や試合の運営やル ールと審判の方法 を知っている。

5 指導と評価計画

第 二 学 年 の 流 れ	時 間 0 10 20 30 40 50	1	2	3	④	5	6	7	8		
		習得の段階					活用段階				
		オリエンテーション									
		柔道場の準備・柔道着の着衣									
		準備運動・補強運動 受け身の練習、課題確認									
		柔道場の 確認 作成	体さばき	立ち技 1 支え技 ・膝車 ・支え釣り込み足 2 まわし技 ・体落とし ・大腰 3 刈り技 ・大外刈り ・小内刈り ○技のポイントやコツを教え合う ○受け側の安全に配慮する ○礼を重んじる			ルールや審判法 1 試合の進め方 2 審判の位置 3 ジャッジの 判断基準 4 簡易試合 5 得意技発見 ○自分の課題を知 り、グループ学習で 解決する ○試合の運営がで きるようにする		試合 体重別 トーナメント		
指 導 と 評 価 の 機 会	関意態	① (観察)	① (観察)			③ (観察)			② (観察)		
	思・判			② (観察)				① (観察)			
	技 能			① (観察)			② (観察)				
	知・理	②[礼法] (発表)						① (発表)	② (観察)		

6 本時の指導（4／8）

(1) 目標

技のポイントを理解し、正しい体さばきから体落としができる。 (技能)

(2) 研究との関連

研究仮説：グループでの学びの場を確保したり、互いの「伸び」や「良さ」を肯定的に認め合えるような相互評価を行えば、進んで学習に取り組む生徒が育つであろう。

- グループでの練習を通して、お互いが技の完成度を高めることができるよう、ペアではなく、技の習得練習を観察する生徒を加え、ポイントと体さばきについてアドバイスをすることで、理解度を深め、技の習得へとつなげる。

(3) 展開

学習内容と活動	時配 形態	指導上の留意点と評価 留意点（・） 評価（◎）	
1 柔道着を着て、準備運動を始める。 (1)準備運動 (2)回転運動 (3)補助運動	10 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・素早い着替えを促し、帯が上手に結べない生徒には、個別に結び方を指導し、理解させる。 ・補助運動の受け身の時は、頭が畳につかないよう注意を促し、怪我の防止を意識させる。 	
2 整列をし、座礼にて挨拶を行い本時の学習問題を確認する。	5 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・正座の仕方を確認しながら礼を行わせる。 	
体落としの体さばきは、足をどのように動かし、どの方向に崩せばよいか			
3 体さばきの基本を復習する。 (1)前さばき (2)後ろさばき (3)横さばき	5 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・足の運び方を確認し、相手の正面や真横に体をさばかせる。 ・慣れてきたら、スピードを上げて体さばきを行わせ、体得させる。 	
4 体落としの体さばきと崩しの方向を知る。 (1)体さばきのポイント ①相手の足幅の真ん中に右(左)足を置く ②最後に出す右(左)足のつま先は、もう片方の足の方に向ける。 (2)崩しの方向 ①相手を前方右に崩す。 ②引き手が有効な崩しになる。 (3)体落としで投げる。 ①受けと取りの位置を確認する ②一斉にリズムをとって投げる ③移動しながら投げる。	20 一斉 ペア グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・集合し、ポイントが覚えられるよう、教師が師範する。 ・最後に出す足のつま先が、自分の顔と同じ方向にあると、自分も一緒に前に倒れてしまうことを、師範をして理解させる。 <p>◎ポイントや崩しの方向を理解して投げているか。 (観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後ろに移動しながら技をかけるときは周囲との距離感を取りながら安全に練習ができるよう、注意を促し、安全への配慮ができるようにする。 	ホリ ト ホ ー ト タ ン ブ リ ン
5 本時のまとめをする。 (1)整理運動 (2)学習したポイントを確認する。 (3)次回の学習問題について話を聞きイメージする。 (4)座礼にて挨拶をする。	5 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・怪我の有無を確認する。 ・学習ポイントを発表させ、理解しているか確認する。 ・次回の大腰についてふれ、体さばきや崩しをイメージさせる。 	
6 片付け 全員で畳を片付け、道着を干す。	5 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で協力して片付けさせる。 	

(4) 板書計画

今日の学習問題

体落としの体さばきは、足をどのように動かし、どの方向に崩せばよいか

体さばき	崩し
前さばき	八方
後ろさばき	※前方，右前
横さばき	